

第9次支援チーム・寺跡勝さん(県連事務局長)からの報告です!

○4月12日(火)19:25

津波被害のひどかった七ヶ浜に行ってきました。想像を絶する世界でした。街が、根こそぎ土台を残し削り取られていました。残った土砂の片づけだけで3年以上かかるそうです。避難された方は学校の体育館暮らし。仮設住宅のめどもたたず、タクシーの運転手さんの話では、1年かかるとのこと。被災者の生活再建は容易ではありません。

《七ヶ浜の様子》



○4月14日(木)10:47

昨日(4/13)は、高野さんが仙台市長町病院の地域訪問、柄折さんが多賀城市の総合体育館の避難所訪問、寺跡は長町・若林地域訪問対策本部(午後は高野さんと一緒に地域訪問)に行きました。

朝、坂総合病院から長町へ向かう高速道路からみる仙台市の光景は異様でした。道路の右は近代ビルが建ちならんでいます。ところが左側は広大な田んぼに、ヘドロ、津波で流ってきた車、家のガレキ、そして海岸の松林に生えていた巨大な松の木が、根っこからもぎとられてたくさんころがっていました。海岸から3~4キロ離れたところなのに、ここまで津波が押し寄せていました。緑の田園地帯が今は荒涼とした荒れ地に変わっていました。長町病院につくと道路向かいの長町病院付属クリニックは、3月11日の地震で倒壊の危険があり、立ち入り禁止になっていました。外来は向かいの病院に移転し、通常診療を行っていました。(歯科は機器が使えないため、通常診療は休止中) 病院もところどころひび割れして、立ち入り禁止区域がいくつありました。

《長町病院付属クリニックの様子》



午後は高野さんと病院周辺の鹿野町にベタで地域訪問に入りました(添付ニュース参照→裏面)。「長町病院です。健康や生活で困ったことはありませんか?」と尋ねる訪問ですが、どこでも歓迎されました。外から見た目ではわからないですが、外壁の一部が落ちたり、家の壁が崩れたりしていました。高齢者世帯では「もう地震はいらない」「余震で眠れない」「ガスが出ない」と不安を訴えていました。また「戦争で家を失い、宮城沖地震でも家が壊れ、ここに引っ越してきたのにまた地震で被害にあった。でもなんとか生きていかなくちゃ。長町病院には20年前からお世話になつていて。あんたたちも富山や神戸から応援にきてくれうれしい。励ましになる。」と歓迎されました。また「お宅(長町クリニック)も被害にあって大変だったね。」と逆にこちらが励まされる家が多くありました。インターホン越しの家も好意的な反応でした。どこの家でも歓迎され長町病院が地域で根付いている事がわかりました。特に高齢者世帯は、不安でいろいろ話を聞いて欲しがっていました。大変な時の被災者訪問が切実に求められていると、強く感じました。

現地の職員の方々は、自らが被災者。そして、余震の影響で自宅の水道・ガスがでない職員もけっこういて大変です。そういう中で、献身的に医療・介護活動を行っています。また支援者に対しても、本当にやさしく笑顔で接してくれます。頭がさがります。そんな現地の職員、被災者の方の一助になればと思います。

～追伸～

寺跡の1日

- | | |
|-------------|---|
| 5:00 | 起床 |
| 5:30~5:45 | シャワー(15分限定の朝シャン…あせって体を洗います)
予約制のため毎日は入れません |
| 6:20 | 朝食、支援準備 |
| 7:30~8:00 | 対策会議 |
| 8:00~8:50 | 仙台市へ移動 |
| 8:50~18:30 | 長町の対策本部拠点で支援活動 |
| 18:30~19:30 | 坂総合病院へ移動 |
| 19:30 | 夕食 |

支援者が泊まる坂総合クリニックは停電が続いています。6階のディーのスペースで寝袋ひいて男10人位で雑魚寝しています。暗黒の世界で暮らしています。電気が全くつかないため、本も読めず、夜は9時に寝て朝5時におきる健全な生活をしています。キャンプ生活をしているようなものです。食事は朝調理パン1個、夜は調理パンとおかず1品です。帰るまでには大分やせれそうです。飲み物は自動販売機(アルコール類はありません)があり、不自由しません。



募金到達状況(4月15日現在) 295万円/目標300万